

ブラジル視覚障害者スポーツ連盟会長らが区を訪問



ブラジル視覚障害者スポーツ連盟 サンドロ・レイナ会長、特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会（J B F A） 釜本美佐子代表理事らが、平成 29 年 3 月 21 日（火）、区役所を訪れ、濱野区長、区議会議員等と懇談しました。

この日、区役所を訪れたのは、サンドロ会長、J B F A 釜本代表理事、松崎英吾事務局長、そして、在東京ブラジル連邦共和国総領事館（東五反田 1）のマルコ ファラーニ総領事等です。区側からは、濱野区長、安藤文化スポーツ振興部長、品川区議会から、昨年のリオデジャネイロオリンピック視察団の渡辺裕一・いながわ貴之議員が出席しました。

品川区と J B F A は、昨年 4 月にパートナーシップ協定を締結し、さらなる連携を深めて、機運醸成をはじめとして様々な事業を展開しています。

また、区では来るべき東京 2020 オリンピック・パラリンピックを控え、昨年 8 月にリオデジャネイロオリンピックに視察団（職員 5 人、区議会議員 2 人）を派遣し、東京大会に生かすべく、区内開催競技の実施状況や、まちの状況、文化プログラム、ボランティア等を直接現場で確認、調査してきました。その際、サンドロ会長等と懇談する機会を得て、東京大会において、ブラインドサッカーブラジル代表の品川区内での事前キャンプ実施について交渉してきました。

サンドロ会長は、「品川区ではブラインドサッカー、そして事前キャンプについて真剣に考えていることが伝わってきました。私個人としては、これだけパラリンピックに力を入れている品川区で事前キャンプを行うことが良いことだと思います」と答えました。

